

テーマ	内容
生涯学習市民リーダーの人材把握について	<ul style="list-style-type: none"> ・市民リーダーは自己申告に基づく登録のため、どのような人が把握できず、派遣の判断が難しい。 ・市民リーダーの把握にあたり、対象者が講師をする場合はほぼ同席するなど同会長の負担が大きい。 ・市民リーダー同士の知り合う仕組みやカテゴリごとのグループ化が進むと人材の把握や適切な派遣につながる可能性がある。
ボランティアへの参加について	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア参加にあたり、守秘義務や人との接し方などの注意事項を記した資料があるといい。 ・市の事業にボランティアとして参加する場合は、事前に説明会などがある場合もあるが、地域の人の声掛け等で始まったボランティアには手引きのようなものはない。 ・「講義を聞いて勉強しましょう」とするのではなく、お互いが確認できるツールなのか手段なのか、参加していただくことへの感謝と参加にあたり配慮することがあるということが伝わる学びの場を設けることも必要。
デジタルデバイスについて	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナにより、インターネットやオンライン会議が普及して、デジタルデバイドの問題について、生涯学習の立場からはどのようなことを進めていくべきか。 ・学習館にWi-Fiが整備され、多くの方がスマホを持つ時代になっていることもあり、問題は広がっているように感じられる。 ・錦学習館でスマホを使ったバーコード決済で買い物をしてみようという講座が実施された。 ・デジタルは推進しつつ、出会いの場や交流の場もつくっていかなくてはいけない。
講座の企画について	<ul style="list-style-type: none"> ・人気の講座はすぐ埋まってしまうので、市民のニーズをしっかりと把握してほしい。 ・単発の講座が多く、立川市をもっと知ってもらうために継続性のある講座の企画をして、内容を深めたり、グループを立ち上げたりする人が出てくるのが望ましい。 ・講座によっては語られる内容（講師をできる人が）が途絶えてしまわないように、若い人たちにどのように受け継いでいくか考えなくてはいけない。
障害者理解について	<ul style="list-style-type: none"> ・自身が怪我をして不自由になった時に、元気だったらできるのにと感じることもあり、足りない部分について深掘していく必要性を感じた。 ・ニーズはあるけど気づいていなかったり、ニーズは少ないけど確実にあるようなものをどう発掘するか。